

平成30年度 基幹型地域ケア会議 報告

日時：平成31年3月14日（木）午後2時～4時

会場：健康センター4階 第3・4会議室

出席者：認知症当事者家族、認知症支援リーダー（市民）、民生委員児童委員、小平警察署、金融機関、バス・タクシー事業者（交通機関）商工会（商店）薬剤師会、居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、地域包括支援センター、小平市（高齢者支援課）

1 今回のテーマ

「ひとり歩き（徘徊）高齢者を守るために私たちができること

～認知症高齢者を地域で支えるために～

認知症という言葉や意味については少しずつ地域に浸透しつつあるが、近年、目的を持ちながら外出し、判断力の低下などによって自宅に帰れなくなってしまう「ひとり歩き高齢者（徘徊高齢者）」が増えている。小平市内においても、ひとり歩きに関する相談が増えており、全市的な課題として、今年度の基幹型地域ケア会議では「認知症」の症状の1つである「徘徊（ひとり歩き）」について、関係機関等と話し合いを行った。最終的には「ひとり歩き高齢者」を守るために、それぞれの立場からできることや、地域でどのような対応策や取り組みが必要か、具体的な提案を出した。

2 情報提供・共有（抜粋）

（1）「小平警察署への相談状況について」

- ・ 小平警察署管内において、保護した件数は450件以上（青少年等も含む）そのうち高齢者の保護件数は約270件。保護された件数のうち高齢者が占める割合は約6割である。
- ・ 本人を保護した後の対応としては、本人からの聞き取りや所有物から身元の確認、過去の記録等を確認している。また、小平市や地域包括支援センターなど地域の関係機関に連絡し相談を行っている。
- ・ 警察に連絡が入ることでは何かしらの対応が可能となるため、ひとり歩き高齢者を見つけたら早めに110番通報をして繋げていただきたい。なかなかハードルが高いと感じている方も多いので、警察としても積極的に周知したいと考えている。

（2）「介護支援専門員を対象にしたアンケート調査結果の報告」

- ・ 市内のケアマネジャー127名を対象にアンケート調査を実施。98名から回答を得た。そのうち、認知症症状のため徘徊（ひとり歩き）が問題となっているケースを担当していると回答した方が33名（約3割）、42件のケースを対応していることがわかった。
- ・ アンケートの質問において、「現在どのような状況で、困っていることはなにか」との問いに対し、突然外出をして自宅に帰れなくなることが頻回にあるケース、家族の疲弊が見られるケース、家族の認知症に対する意識や対応が低く困難と感じるケースなど様々であった。
- ・ 実際にお店の方やご近所の方が声をかけて、自宅に帰ることができた例もあり、介護保険サービス以外にも、地域での見守りや声掛けなどが認知症高齢者やその家族にとって大きな支えになっていることも事実である。

3 まとめ

今回は、地域に関わる様々な立場の方を招き、より具体的な支援方法等を意見交換が行えるようグループワーク形式で行った。出席者からは、ひとり歩き高齢者を守るためには、まずは地域における認知症の理解と、異変に気づく力を身につけることが大切であるといった意見が挙げられた。地域内における認知症の普及啓発には、認知症サポーター養成講座の更なる実施が必要であるが、金融機関、商店、交通機関（バス・タクシー）等の民間事業者からは、日々の業務上、認知症サポーター養成講座を受講することが難しいとの課題も出された。

認知症高齢者への対応について、地域住民や関係機関では、“自分たちができる事”の範囲で様々な取り組みや対応を行っていることを共有することができた。認知症高齢者だけでなく、多くの高齢者が住み慣れたまちで暮らしていくためには、既存にある社会資源やネットワークに加えて、他人事ではなく自分事として捉えてもらうような普及啓発の機会や、必要に応じて、ひとり歩き高齢者の通報情報を関係機関でも共有するなどの自分たちのできる最大限のことを行いながら、お互いに連携を行うことが重要であるとの共通認識を得ることができた。

4 今後の取組むべき事について

(1) 【周知】多くの人に認知症を知ってもらい、助ける人・助けられ上手をつくる

- ・ 実際にどう声をかければよいか、どこに繋がればよいかわからない方が多くいることから、認知症サポーター養成講座を継続的に周知し、さらなる実施を目指していく。
- ・ 金融機関、小中学校、近隣住民等への実施に加えて、商店や交通機関等でも認知症の啓発を行う。実施日時を平日だけではなく、土日や夜間の開催が可能であることの周知とともに、短時間でも認知症の啓発ができるように、出張によるミニ講座の検討や、約1時間で修了できる認知症サポーター養成講座など柔軟な対応策を検討している。
- ・ 商店などが認知症サポーター養成講座を行った時に、受講したことが来客者にPRできないかとの意見から、認知症サポーター養成講座におけるオレンジリング以外の配布物について検討。

(2) 【ネットワーク・見守り】早く見つける、早く見つかる、早く繋がる

『ネットワーク・見守り』

- ・ 行方不明者情報等を地域の関係機関と共有し、早期発見のための見守りの目を拡大すると共に、協力関係を通じて、関係者間のネットワーク充実を図っていく。
- ・ 出前講座や認知症サポーター養成講座等の講義内容に、見つけたらまずは110番（連れて動かない）行方不明がわかったら110番など、早めに警察に繋げることを周知していく。
- ・ 声かけは業務の中や日ごろの生活の中等、誰でも行うことができる。小さな変化を見逃さないよう日頃からの見守りを意識ために、地域ぐるみで見守りができるように啓発を継続していく。

<全体に共通すること>

- ・ 認知症に偏見を持たず、正しい理解を得てもらうために、認知症サポーター養成講座や、個別の地域ケア会議等の実施。
- ・ 地域住民を含めた顔の見える関係を継続的に作っていく。